

令和 7 年度 地域を志向した研究 成果報告書

テーマ		参加型インクルーシブ防災活動による災害にも強い支え合える地域づくり			
研 究 組 織	代表者	所属・職	短期大学部・准教授	氏名	江原勝幸
	連 携 研 究 者	所属・職	氏名	所属・職	氏名
		静岡大学・教授	池田恵子		
		静岡市障害者協会・ 会長	牧野裕善		
		お産ラボ防災部・ 部長	増本恵子		
		災害ボランティア・ やらざあ駿河代表	藤澤弘子		
		豊田自治会・会長	児嶋喜彦		
研究の目的、 内容、方法、 研究成果、 今後の課題等	<p>【研究目的】地域のどの世代にも関心の高い「防災」と要配慮者を日常で支えている「福祉」を融合させ、参加型インクルーシブ防災活動により世代間交流を促し、地域のつながりづくりに資する新たな地域防災アプローチモデルを開発する。</p> <p>【内容】①地域住民対象の福祉防災ワークショップの実施、②参加者が避難所運営を体験する「リアル HUG」及び防災キャンプの実施、③「リアル HUG」参加者による福祉防災シンポジウムの実施、④防災キャンプ手引書の作成</p> <p>【方法】研究代表者（江原ゼミ学生含む）と連携研究者は、西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会と共に、参加型インクルーシブ防災活動として親子対象の防災キャンプに取り組み、そこで内容①、②、③の実践活動とリンクさせた。</p> <p>【研究成果】内容①10/12 に県立大学小鹿キャンパスで実施。子どもを含む 69 人の参加があった。②豊田中学校体育館を会場に、障がい児者 33 人を含む 181 人が参加した 12/6 のリアル HUG では参加者が運営役と避難者役に分かれて避難所運営体験を実施したその後は体育館での避難所宿泊体験を行った（宿泊者 58 人）。③基調講演、避難所運営実践報告、リアル HUG シンポジウムの 3 部構成で実施した福祉防災シンポジウムを 1/18 に静岡県地震防災センターで実施し、参加者は 155 人であった。④研究目的のモデル開発の成果として防災キャンプ手引書を作成した。</p> <p>【今後の課題】インクルーシブ防災活動を西豊田学区に浸透させること及び他地域への横展開が課題である。④作成した防災キャンプ手引書を活用し、参加した若い世代が地域防災活動に参加し、リーダーシップを発揮することを期待したい。</p>				

※別途研究成果資料を添付する。

令和 8 年 2 月 24 日提出